



JCLIFE

2019年
5月号



一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL: 0848-20-1110 FAX: 0848-20-1112 E-mail: ojc@urban.ne.jp Facebook: <http://www.facebook.com/isojcnw>

4月例会

4月16日(火)、西國寺金堂にて
4月例会を開催しました。



地域の魅力創造委員会・大本誠委員長は、「承前啓後(こくぜんけいご)尾道のお寺と商人」のテーマの下、利他の精神によって築き上げられた尾道のまちとお寺について、メンバー一人ひとりが歴史を知り、今・そして未来に繋げるこの大切さを知る機会になれば、という想いの中で、尾道の歴史と共に歩んできた「西國寺金堂」での開催となりました。



ブラタモリなどにもご出演された、尾道市文化振興課・西井亨先生に、尾道の

お寺と商人の歴史をご講演いただき、商人が果たしてきた役割や想いを知ることが出来ました。

西國寺・麻生裕雄副住職からは、「多くの方に支えられて、お寺は成り立っています。ぜひ、皆さんも仕事を頑張られて、尾道のお寺との繋がりを継承して行ってほしいと思います。」

という、副住職として、尾道JCIの先輩として熱いメッセージを頂戴しました。

本例会を通じて、尾道の魅力発見の大きなきっかけになりました。

(記事:村橋聡)



4月13日(土)、郷原カントリークラブにて
広島ブロックゴルフ大会
が開催されました。

天候にも恵まれ、総勢176名の参加者がゴルフを通じて、LOMの垣根を超えて交流することが出来ました。

尾道青年会議所は、山北理事長はじめ、多くのメンバーが素晴らしい結果を収めることができ、団体戦優勝を飾りました。

また、個人優勝は、新入会員の村上康君が飾るなど、大いに盛り上がりました。

広島ブロック協議会の皆さま、並びに主管いただいた呉青年会議所の皆さま、本当にありがとうございました。

(記事:岡本正也)



委員会紹介

次代を担う宝育成委員会



岩井達也

次代を担う宝育成委員会 委員の岩井です。

当委員会では本年度、【『食』から考える健康づくり】というテーマの下で活動しております。次代の宝である子どもたちにとって、普段の生活を送る上で健康な心身は全ての基本となります。「人間の身体や命は口から入る食べ物でしかつくりられない」と考えると、『食』は健康の維持促進に最も直結する切り口ではないかと考えております。

2月例会では講師に管理栄養士の先生をお招きし、『食で育む命と未来～食べることから見えるもの～』というテーマで、現代の子ども健康と食育の在り方についてお話し頂きました。

4月は家族会を実施し、オリジナルさつま揚げ等の昼食を自分の手で作って頂いたり、ミニ食育講座を行うなど、楽しみながらも家族で『食』に触れるような設えとさせて頂きました。

今後は、メインの事業と11月例会が控えておりますが、どちらも『食』にフォーカスした内容で年間を通じて一つのテーマを軸に事業展開して参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

あるべき姿探求委員会



藤川 彩

あるべき姿探求委員会では、原田委員長が掲げる「現状維持は下降線」というテーマのもとで活動を行っております。1月の新年宴会を無事に終えることができ、現在は、委員会内における活発な議論も交えながら、令和という新たな時代における尾道青年会議所の「あるべき姿」について、探求・模索を重ねております。

目まぐるしく変化していく社会の中にあっても、尾道青年会議所が地域において必要とされる存在であり続けるためには、尾道青年会議所の「あるべき姿」について、改めて考えることも重要です。当委員会では、「あるべき姿」という根本的な問題について改めて考える機会の提供を目指し、今後の事業に取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

拡大研修委員会



中司昌克

「新入会員20名必達!!」

今年の拡大目標を掲げ、尾道青年会議所メンバー一丸となって拡大活動を行っております。

私たち拡大研修委員会はその先鋒として、自分たちが率先して行動することで拡大意識の向上を図り、また拡大活動がスムーズに進むようメンバー間の調整を行う等しています。

現在、OB諸先輩方のご協力も頂き、13名の仮入会員の方をお迎えしていますが、まだまだ目標には遠く及びません。

他者との関係が希薄となったと叫ばれている今日。それは当然、会や町の存続にも影響を及ぼしています。尾道を明るい豊かな町にしていこうという思いを持った仲間を多く迎えるために、私たちがENGINEとなって走っておりますので、皆様のご協力を何卒よろしくお願ひ致します。

三種の神器とは

4月30日(火)、天皇陛下がご退位、5月1日(水)、皇太子さまが天皇陛下に即位され、令和がスタートしました。

あらゆるメディアで、令和の由来や、国事行為について取り上げられていますが、その中で、今回は「三種の神器」について触れてみたいと思います。



●三種の神器とは？

三種の神器とは、日本の歴代天皇のみが継承する3つの伝説の神宝です。
八咫瓊勾玉(やさかにのまがたま)
八咫鏡(やたのかがみ)
草薙の剣(くさなぎのつるぎ)＝天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)

三種の神器の意味は、国語辞典では「天皇の正当性を裏付ける神代からの宝物」とされ、正当皇位継承者にのみ受け渡されるもので、天皇が崩御されるもしくは譲位される際に「承継の儀」を持って、次の天皇に三種の神器が受け継がれます。
※厳密には承継の儀は剣璽等承継の儀と呼ばれ、草薙の剣と八咫瓊勾玉の入った神櫃が次の皇位継承者に受け渡しされます。

●三種の神器は見えない？！

実は、三種の神器は、三種の神器を見れる人はこの世にいない。三種の神器を見れる人はこの世には存在しません。三種の神器の隣の部屋で寝られる天皇陛下でさえ見ることは許されないので、様々な推論が生まれました。



「清浄なモノを意味する「清(きよ)と穢れたモノを意味する「次(つぎ)」を厳密に区別し、祭典に当たっては穢れた状態にならないように細心の注意を払う」と言わ

れています。

●三種の神器は2つある？！

現在、実在する三種の神器は複数あります。三種の神器の神剣、神鏡は実は世の中にはありません。2つ存在しています。
神璽(しんじ)と読み八咫瓊勾玉を意味(はこの世に2つだけながら、他の二つの神器は2つあり、それぞれ別のところに祀られています)。

三種の神器の草薙の剣と八咫鏡はそれぞれ本物と形代かたしろが存在します。
この三種の神器の形代とは、わかりやすく言うと、レプリカのことです。
初代天皇の神武天皇以降、崇神天皇の御代までは本物の三種の神器は同じ床で寝食を共にすることになっていました。
しかし、アマテラスオオミカミの神勅または崇神天皇が、恐れ多いと思し召しから八咫鏡(やたのかがみ)と草薙の剣(くさなぎのつるぎ)は宮中から別のところに遷座することになります。

しかし、三種の神器がアマテラスオオミカミから、天皇家の祖のニギノミコトに受け渡されたときに、「三種の神器は同じ床の上で寝るのです」という神勅を受けていたため、本物から神力を分祀した形代が作成されたのです。
本物とレプリカが存在するとは言いますが、レプリカの方も本物と同じ尊いものとして、大切に安置されています。
ちなみに、三種の神器の二の八咫瓊勾玉は本物だけが存在しています。

●三種の神器はどこにあるの？

勾玉…皇居のみ
形代(レプリカ)が存在しない八咫瓊勾玉は、宮中の天皇の寝室の横にある「剣璽の間(けんじのま)」に神櫃という箱の中に安置されています。
神鏡・伊勢神宮と皇居
八咫鏡の本物は伊勢神宮(正式には内宮(皇大神宮))にアマテラスオオミカミの御神体として祀られています。
八咫鏡の形代(レプリカ)は皇居の中の宮中三殿の賢所(かしこころ)に奉安されています。

八咫鏡はアマテラスオオミカミがこの鏡を見るとときは私を見るものと思えない」と言い、三ギノミコトに授けたことから、三種の神器の中で唯一宮中の奥深くに祀られて

	八咫の鏡 (やたのかがみ)	八咫瓊勾玉 (やさかにのまがたま)	草薙の剣 (くさなぎのつるぎ)
本物	伊勢神宮内宮	皇居御所 剣璽の間	熱田神社
形代	皇居賢所	-	皇居御所 剣璽の間

います。

●三種の神器の神話や由来

三種の神器はどのように天皇家に受け継がれるものになったかの物語です。
元々三種の神器は天皇家の祖、皇祖神のアマテラスオオミカミが所有していました。アマテラスオオミカミは高天原という天界にいます。
この天界から今の日本、つまり地上界に持ち込んだのは、ニギノミコトという神様です。
ニギノミコトはアマテラスオオミカミの孫に当たる神様で、地上の国(葦原中津国)の統治をしに降臨されました。

この降臨の際に、アマテラスオオミカミが三ギノミコトに三種の神器を授けられ、歴代の天皇が大切に保管して今に至るのです。
アマテラスオオミカミからニギノミコトに授けられたときに、神勅がありました。
「この鏡を見ると私は私を見るのと同じように見なさい。そして鏡は同じ屋根の下、同じ床において、しっかりと祀らなさい」と、この神勅があるために、形代(レプリカ)を作っても宮中に祀られているのです。

【八咫鏡(やたのかがみ)】

八咫鏡は、先ほどの神勅でもあった通り、アマテラスオオミカミがそこに宿るとされ、最も重要な神器と考えられています。
この八咫鏡はアマテラスオオミカミが天の岩戸という洞窟に隠れてしまふ大事件がきっかけで作成されました。
太陽神のアマテラスオオミカミがいなくなったことから、世界から光が消え、真暗になってしまいました。
この状況を何とか打開するために、八百万の神々が集まって、策を考えます。
その中で、オモイカネ(思兼神)という知恵の神様が思いついた策で、イシコリドメという鏡を作る神様が八咫鏡を作成したのです。
アメノウズメノミコトが裸踊りをして、八百万の神々がはしゃいでいるのをアマテラスオオミカミが「なぜ世界は暗闇なのにこんなに外ではしゃいでいるのか?」と思つたところ、
アメノウズメノミコトが「あなた様より素晴らしい神様が来られたのでみんな喜んでるのです!」と言います。

アマテラスオオミカミはどんな神様なのかと思つた洞窟を自ら少し開けたところに、神様が八咫鏡を持つて待機していました。

この鏡に映る自分の姿を、自分だと思わなかったアマテラスオオミカミは誰なのかとよく見ようと体を洞窟の穴から乗り出したところで、天津神の中で、力持ちで有名なアメノウズメノミコトという神様に引張られて洞窟から出されます。

作戦は無事に成功しアマテラスオオミカミが洞窟から出て世界は光に満ち溢れるという物語です。

【八咫瓊勾玉(やさかにのまがたま)】

八咫瓊勾玉も八咫鏡と同様に、天の岩戸の事件で作成されます。
天の岩戸で八咫鏡にアマテラスオオミカミを映すという作戦で、鏡をセットする櫛の木の枝に装飾品として八咫瓊勾玉が付けられます。
この八咫瓊勾玉は、タマオヤノミコト(玉祖命)という勾玉造りの神様が作成をします。

【草薙の剣(くさなぎのつるぎ)】

草薙の剣は三種の神器の中で唯一、天の岩戸で作成されたものではありません。
先ほどの、天の岩戸の事件の原因となったスサノオノミコトという神様がアマテラスオオミカミに献上したものが、三ギノミコトに受け継がれます。
スサノオノミコトは、天の岩戸の事件後、高天原を追究され、地上界に行き出雲でもきれいな女性に出会います。
この女性はクシナタヒメと言います。この女性と結婚を望みますが、ヤマノオロチというこの地にいる怪物の生贄となりもうすぐ死ぬのだと言います。
そこで、スサノオノミコトがヤマノオロチを退治しようと言います。見事退治に成功します。

ヤマノオロチの体を剣で切り刻んでいたところ、自分の持つていた十拳剣(じゅうけん)が突然折れたので、不審に思い探ってみると、草薙の剣が見つかったというのです。
この草薙の剣をアマテラスオオミカミに献上します。
ちなみに、草薙の剣は、別名を天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)と言います。
日本書紀によると、ヤマノオロチと言う怪物がいるところには、その上に雲が常にならなっていたので、天に雲がなつていいることから、天叢雲という名前がついたそうです。

色々書いてきましたが、まだまだ多くの謎が残っており、ロマンがありますね。
漫画やアニメゲームでもよく登場している、日本人には意外となじみ深いかもしれませぬ。
ちなみに、三種の神器といえは「白黒テレビ・冷蔵庫・洗濯機」も忘れるわけにはいきませぬ(笑)。(記事・岡田貴臣)



家族会



4月21日(日)、尾道市マリニューズセンターにて、家族会が開催されました。

絶好のお天気の中、多数の奥様・お子さまにご参加いただき、桂馬蒲鉾店直伝のさつま揚げを作ったり、おむすびを握ったりと、ご家族みんな笑顔いっぱい楽しみました。

冒頭では食育講座として、出汁の取り方、さつま揚げの作り方などを説明しましたが、子どもたちが食い入るように見ている姿が印象的でした。

さつま揚げの他にも、美味しいお出汁のつみれ汁や、ピアチキなど、趣向を凝らしたメニューいっぱい、みんな大満足でした。

午後からは、体育館に移動してカブラ体験を行いました。

日野先生による製作指導をいただきながら、大人の身長をはるかに超える高さまで積み上げたり、かまくらを作ったり、家族団らんの楽しい時間を過ごしました。

日頃、ご家族の大きなサポートがあるからこそ、JC活動が出来ていることに改めて感謝する一日となりました。

(記事:吉田 嵩正)



みなと祭り

4月27日(土)、28日(日)、平成最後の開催となった「尾道みなと祭」にて、地域活性化促進委員会の設営のもと、動物ふれあい広場、VRゲーム体験、飲食ブースなど盛りだくさんのイベントが行われました。ヒヨコやウサギ、ヤギやヘビなど動物たちと触れ合える時間、最先端技術を使ったVRゲームでの体験、綿菓子を自身で作る楽しさなど、子供たちにとって心を豊かにする経験と思い出になったのではないのでしょうか。地域の方、観光でお越しの方を問わず、多くの方に訪れていただき、結果として会場となったオーリーブ広場(Onomichi U2 東側広場)は、各コーナーに行列が出来るほどの賑わいと、たくさんの子供たちの笑顔が溢れていました。今後も、多くの方に喜んでいただける「お祭り」と連動した活動を、末長く続けていきましょう。

(記事:内海 洋平)



30年余り続いた「平成」も幕を閉じ、新しい時代の「令和」が始まった。尾道ではJR尾道駅の新駅舎や市長選挙、第76回尾道みなと祭など市民と観光客で賑わう行事が数多くあった。例年にないゴールデンウィークの長期休暇も、それぞれが色々な形や思いでリフレッシュしたことでしょう。

このまちではこれから、祭りなど多くのイベントが行われる。祭りやイベントは、いつもと違うことをみんなでやることによって一つになれる。結束して乗り切ろうとする姿は、共同体が存続していくための大事な知恵とも捉えることができるでしょう。

みんなでまちに出て、自らが住み暮すまちを、新しい時代を盛り上げよう!

(記事:島田 元太)

HP

facebook

